軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート12

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

米国ケンタッキー見聞記・パートⅥ

Rood & Riddle Equine Hospitalの１つのセクションとして，そこには蹄病専門のセンターがあった。そこでは獣医師と装蹄師が，お互いにスタッフとして一致団結し，相互の理解と信頼の下で，厄介な肢蹄の病気やトラブルに対処していた。そこで出会った装蹄療法と特殊装蹄を紹介する。

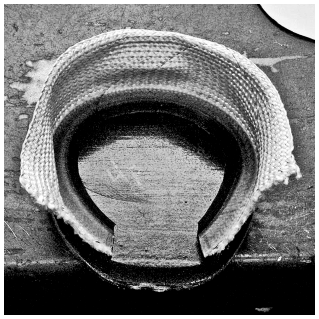
Rood & Riddle Equine Hospital Podiatry Center 編

【狭窄用ポリフレックスウレタン蹄鉄】

この馬は蹄が弱く蹄踵が狭窄している。まず，ポリフレックスウレタン蹄鉄を万力に挟んで蹄踵部の幅に合わせ，ピアノ線で固定する(写真左)。その蹄鉄をエクイロックスで蹄に接着した(写真右)。これは鋼片入りのポリフレックスウレタン蹄鉄で，蹄角度が高く，狭窄した蹄に使う。蹄機作用を考慮し，軽量で蹄に優しい。子馬から競走馬用まで，いくつかのサイズが用意されていた。

【シガフース接着蹄鉄】

シガフース蹄鉄は，蹄病用に開発された治療用蹄鉄。キットとしてパックになっており，その都度，装着する蹄に合わせて組み立てる。まず実馬の蹄に合わせて型紙を作る。このとき，型紙には中心線を引き，内外が対照になるようにトレースし，剰縁部分も考慮して描いていた。この型紙に合わせて，アルミニウムの挟まったウレタン板をジグソーで切断する。切り取ったウレタン板に布製のタブを取り付ける。両者を接合するには，ごく普通のオーブンで両者を加熱し，圧着装置で加圧する。



写真左は出来上がったシガフース蹄鉄で，布のタブ部分にエクイロックスを塗って蹄壁に接着する。写真右は接地面側から見たところで，反回や旋回促進のために全周に亘って上湾状に傾斜し，接地部分は蹄のサイズよりも小さくなる。このシガフース蹄鉄は，蹄内部の疾患用保護蹄鉄として，最近注目されている。

【おまけの蹄】

訪問中，病院の繁殖科に来院したテネシーウォーキングホースの競技馬に遭遇した。これらの競技馬は，実に特殊な方法で装蹄する。まるで「ぽっくり」のように，厚いプラスチック製のパッドを履かせる。パッドの重量は1.25kg。重く，長い蹄が肢の末端にテコの作用をもたらし，反回を阻害する。その結果，ウマは歩くために関節の屈曲を増し，大きく流れるような生き生きとしたアニメーション歩様を生みだす。さすが米国。いろいろと予想外のことに出会うものだ。